

第12回世界精神医学会横浜大会  
精従懇特別フォーラム「精神保健福祉の変革」

シンポジウム I

世界を覆うメンタルヘルスの危機

座長：藤本 豊（東京都立多摩総合精神保健福祉センター）

ここでは、第12回世界精神医学会横浜大会で、精従懇特別フォーラム「精神保健福祉の変革」The Reform of Mental Health Care Systemのシンポジウム1「世界を覆うメンタルヘルスの危機」について報告をする。

このシンポジウムでは、精神科医高岡健さん、弁護士副島洋昭さん、イギリスのAnula Nikapotaさんに発題をお願いした。しかし、当日Anula Nikapotaが来日されなかったため、Mike ShooterさんがAnula Nikapotaさんの原稿を代読され、最後にMike Shooterさんから、それぞれのシンポジストへのコメントを頂く形でシンポジウムが進められた。

本シンポジウムは、現在世界の各国が直面しているメンタルヘルスの問題に対して、日本と、イギリスの現状から、2ヵ国での共通点を探り出すことで、グローバルな視点に立って、メンタルヘルスの問題を解決できる糸口の方角を見つけ出したいと考えた。

日本では最近、青少年の犯罪が、また中高年ではリストラに絡む問題がライフステージ上のメンタルヘルスの問題として挙げられている。この日本の現状と他国の違いはあるのだろうか。本来は何ヵ国かの現状を見て考えていくべきテーマであるが、今回はイギリスの子どもたちの問題点と日本からの報告に終わってしまった。

子どもたちを取り巻く現状については次のよう

ないいくつかの論点が考えられる。イギリスでも日本と同じような状況にあるのだろうか。あるいは違うのだろうか。イギリスで起きていることが日本でも起きる可能性があるか。また日本だけではなく他の国ではどうであろうか。そしてイギリスで施行されている子どものメンタルヘルスの問題の解決策が日本でも有効といえるか。あるいは逆に日本での方策が他国でも有効といえるかといったことを議論する中で、新たなアイデアが本シンポジウムで得られることを期待して精従懇として企画をしたわけである。

当日は、高岡さんが10代後半の子どもたちの問題と50代前後の大人の問題に関して、それぞれの社会背景をもとにそれらの問題の病巣はどこにあるかの考察が報告された。そして、弁護士の副島さんからは、知的障害者の裁判を通して、知的障害者が抱えているメンタルヘルスの問題の指摘がなされた。その中では、精神保健医療従事者の目に映し出されない、知的障害者のメンタルヘルスに関しての鋭い問題提起がされた。イギリスのAnula Nikapotaさんからは、イギリスでの子どもを取り巻く問題の報告が行われ、またMike Shooterさんからもイギリスの子どもを取り巻く問題として、薬物使用の低年齢化しているとの報告がされた。これは今後日本の精神保健でも即急に取り組まなければならないテーマであると痛感した。以下にそれぞれの発題を掲載する。